

立野溪谷

現在の阿蘇カルデラは肥沃な草原に覆われていますが、1万～6千年前は大きな湖でした。時間の経過とともに、カルデラの高い壁の唯一の隙間である立野溪谷から水が流れ出し、今日見られる広々とした空洞となりました。

伝説によると、阿蘇の建国神である健甕龍命（たけいわたつのみこと）が、カルデラの壁を蹴倒してこの地域を排水し、稲作を可能にしたそうです。地質学的には、この排水は峡谷の下にある地震断層によるものと考えられています。

見下ろすと、阿蘇の2本の主要河川である北の黒川と南の白川が合流し、カルデラから熊本に向かって流れ出ているのが見えます。秋には溪谷が多様な色相の赤、黄色、オレンジで色づきます。